日時：令和6年10月4日（金）

14：00～16：10

場所：長崎市役所 2階多目的スペース

参加人数：88名

報告者：永富 幸美

【研修概要】

1.開会挨拶

2.長崎市定期巡回・随時対応型訪問介護看護連絡会より、定期巡回サービスの紹介

3.長崎県栄養士会よりながさき栄養ケア・ステーションの紹介

4.講義「地域共生社会を目指して～介護支援専門員・相談支援専門員の連携～」

講師：あいさぼーと相談支援事業所・居宅介護支援事業所

管理者 大峰 史子先生

5.グループワーク

6.発表

7.まとめ

8.閉会挨拶

相談支援専門員との連携をテーマに、あいさぼーと相談支援事業所・居宅介護支援事業所の大峰史子先生にご講義いただきました。

障害者総合支援法や相談支援専門員の役割、歴史的背景などのお話や、支給決定、サービス利用までのプロセス、モニタリングについては状況に応じて時期が異なることを学ぶことができました。

相談支援体制については、第1層に基本相談支援を基礎とした計画相談支援を行う指定特定相談支援事業（長崎市50事業所）、第2層に一般的な相談支援を行う市町村相談支援事業（長崎市5事業所）、第3層に地域における相談支援体制の整備や社会資源の開発などを行う、基幹相談支援センター（長崎市1事業所）があり、それぞれの役割が違うこと、状況に応じてそれぞれの事業所と連携をとる必要があることがわかりました。

グループワークでは事例を用いて、高齢者と同居する家族の相談についてどのような機関と連携をしておくかについて話し合い、地域包括支援センターや多機関型地域包括支援センター、基幹相談支援センターにつなぐ、サービスを受けるには障がい者手帳が必要なのでその説明をしたうえで医療機関につなぐ、などの意見が出されました。介護支援専門員と相談支援専門員と一緒にワークを行うことで、顔見知りになり、お互いの職種の理解ができたことで今後の支援に役立てるのではないかと思います。

障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行するケースでの連携、また、家族や地域との関りが希薄など多問題を抱えたケースを担当することも増えてくるかもしれませんので、様々な職種の方との連携や相談窓口を知っておくことの大切さを知ることができました。